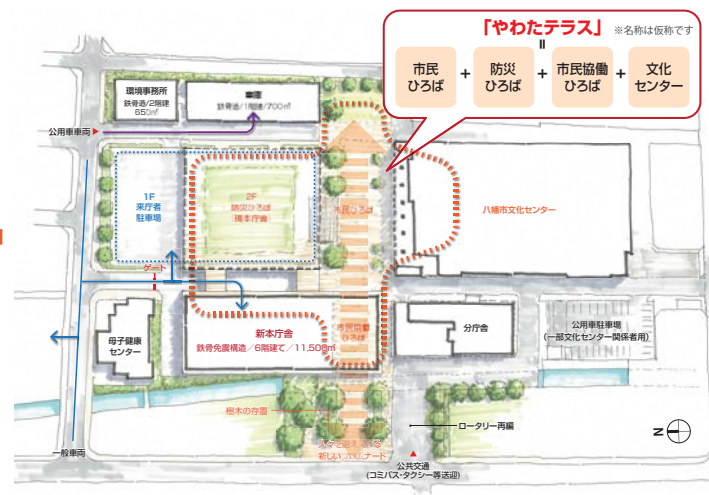
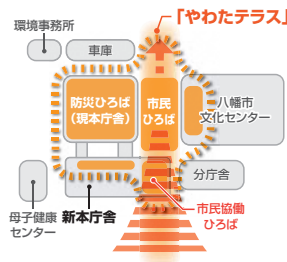


市民とともに未来へつなぐ「やわたテラス」をもつ庁舎

シビックセンターの中核拠点となる新庁舎は、日常的に人々が集まり滞在できる場＝「やわたテラス」を中心に、市民交流・賑わいを活性化します。さらに、あらゆる災害への万全な備えを施し、「シビックプライド（愛着と誇り）」によるまちづくりの起点となります。

八幡テラスは、「市民ひろば」と現本庁舎を活かした「防災ひろば」、新庁舎内の「市民協働ひろば」、さらには「文化センター」と一体となり構成される市民の憩いの場・賑わいある活動の場です。



第2回 市民ワークショップを開催しました



ありがとうございました

2回目のワークショップでは、“市民に親しまれ、開かれた市庁舎のあり方”及び“八幡（やわた）テラスをつくろう！”をテーマとしてグループワークを行いました。皆様にはより具体的に新庁舎をイメージできるように、ムービーもご覧頂きながら、様々なご意見を頂きました。これまで2回開催させて頂いたワークショップの貴重なご意見を踏まえて参考に基本設計をまとめて参ります。

基本設計がまとまる来春の段階でニュースレターを発行し、設計内容をご報告させていただきます。

自治会、PTA、各種団体等からご参加いただいた皆様

- 八幡市自治連合会、八幡市PTA連絡協議会、みその保育園保護者会
- 八幡幼稚園PTA、八幡市環境市民ネット、八幡市工業会
- 八幡市自主防災推進協議会、(社福)八幡市社会福祉協議会、八幡市商工会
- 八幡市消防団、八幡市女性団体連絡協議会、八幡市身体障害者団体連合会
- 八幡スマートウェルネスシティ推進協議会、八幡市文化協会、
- 防災ネットワークやわた、NPO法人八幡まちづくり協会
- 八幡市民生児童委員協議会、八幡市老人クラブ連合会、



参加頂いた皆様と記念撮影

市民との対話による市庁舎づくり

21世紀を迎えて、市民がまちづくりに参画する時代が到来しています。まちづくりには、コミュニティセクター（市民）、民間セクター（企業）、公共セクター（行政）の力が不可欠であり、これら3つの力を上手く組み合わせることが街の未来を拓く鍵となります。それゆえ、広い意味での市民（企業、NPOなどのボランティア組織などを含む）が自由に集うことができるパブリックスペースをつくるのが大切になります。

新庁舎の計画案では、そのようなスペース（市民ひろば・防災ひろば・市民協働ひろば+文化センター）を「八幡（やわた）テラス」と名付け、新しい街のシンボルとして位置づけています。

第2回ワークショップでは、①「市民に親しまれ、開かれた市庁舎」を目指して、シビックセンターとなる市庁舎のあり方を話し合っており、それを踏まえて、②新庁舎の核となる「八幡テラス」をつくり出すアイデアを出して頂きました。ここで出された意見や提案を新庁舎の設計に活かしていきたいと思っております。

前回のワークショップに続き、2018年11月18日（日）に第2回目のワークショップを八幡市文化センター展示室にて開催しました。八幡市自治連合会をはじめ、各種団体等からの推薦と一般公募を合わせて30名の皆様にご参加頂きました。

八幡市からのあいさつの後、門内教授から第1回目のワークショップを振り返って頂きました。つづいて、グループワークに入る前に、“市民との対話による市庁舎づくりについて”をテーマに、他事例の紹介とともにご説明頂きました。

第2回目のワークショップでは、八幡市全体と市庁舎の関係性を考える広い視点から、シビックセンターとしての市庁舎のあり方を考え、市民の出会いや交流の場となる「やわたテラス」を具体的にイメージしてつくってみるために、以下の2つをテーマとするグループワークを実施しました。

グループワーク1 市民に親しまれ、開かれた市庁舎のあり方

グループワーク2 八幡テラスをつくろう！



メインファシリテーター 門内 輝行
大阪芸術大学 芸術学部建築学科 教授・学科長
京都大学名誉教授
八幡市新庁舎整備アドバイザー
プロポーザル評価委員会・委員長

ニュースレターについての
問い合わせ先

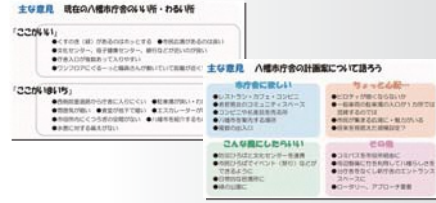
八幡市役所 総務部 総務課 庁舎整備担当まで
TEL : 075-983-1111 (代表)
075-983-2932 (直通)

共催：株式会社 山下設計 関西支社

ワークショップの流れ

前回 WS の振り返り

前回 WS の主な意見を紹介



市民との対話による市庁舎づくりについて

市民協働社会のための市庁舎づくりについて、他都市の事例を紹介



グループワーク1

市民に親しまれ、開かれた市庁舎のあり方

地域資源を踏まえて、シビックセンターとしての市庁舎のあり方を考える



イメージしてみよう

やわたテラスの説明と新庁舎をよりイメージしてもらうため、計画案の動画を上映しました



グループワーク2

やわたテラスをつくろう！

グループワーク1を踏まえ、やわたテラスの具体的なつくり込みを行いました



まとめ

門内教授から今回のWSを総括してもらいました

前回と同じく、5つのグループに分かれ、様々なご意見をだして発表してもらいました

グループ①



GW1

- 観光資源がたくさんある
- 歴史ツアー、東高野街道
- 太鼓祭りをもっとアピール
- お家のまち八幡

GW2

- 若い人が集まることが出来る八幡テラスを
- カフェ、レストランなど時間を過ごせるように
- ロータリーをしっかり整備

グループ②



GW1

- 飲食店、宿泊施設が少ない
- 名所を巡るルートマップをつくって市役所を起点に
- 長期滞在できるように
- 市が中心になって企画を

GW2

- 市民ひろばと防災ひろばを上手くつなぐ仕掛けを
- 時間を過ごすことができるように
- 市民が自由に使える仕組み

グループ③



GW1

- やわた音頭の復活！？
- 名所が点在していて市全体でまとめるのが難しい...
- 地産の農産物を使ったカフェが市役所に出来たら

GW2

- 公園のような使い方をしたい
- 防災ひろばはウィークリーマルシェができるような仕掛けを
- FMステーションを

グループ④



GW1

- 最低限でも市役所への交通手段を整えてほしい
- 観光、イベントをシリーズ化
- ファミリー層が多いのでターゲットに

GW2

- エスカレーター、エレベーターがどこにあるかが重要
- イベントができるインフラをしっかりと整備しておく
- 防災ひろばに芝生、屋根、WC

グループ⑤



GW1

- 八幡市の魅力をつなく役割を
- 市民活動が分かるように
- 八幡市に関連する偉人を紹介したい

GW2

- 市民ひろばに八幡市をアピールできる設えを
- 緑を多く、防災ひろばは芝生
- 分庁舎、車庫もなくて緑を

主な意見 市民に親しまれ、開かれた市庁舎のあり方

八幡の観光資源を活かした観光ツアーを企画したら

FMステーションをやってみたら

市庁舎だけではなく八幡市の顔となる駅とうまく連携を

各所の朝市の拠点となるような市庁舎がよい

コミュニティバスなど市庁舎への交通手段が不可欠

今あるサイクリングロードをもっと活かしたい

寺社仏閣との連携座禅の体験など外国人向けの対応できたら

市庁舎は八幡の情報発信の拠点であるべき各所にはサテライトを

主な意見 やわたテラスをつくろう！

- イベントとして使うひろばと芝生ひろばをつくって様々な利用ができるように
- 展望ロビーやレストランなど市庁舎の中にも土日利用ができる機能を
- 公園のような市庁舎であってほしい
- 2階が窓口になるので、動線計画が重要！エスカレーターは内部に
- 1階に観光案内・情報発信を八幡市の魅力を演出して欲しい
- 防災ひろば1階の駐車場が丸見えなのはちょっと気持ちよくない

全グループで出たご意見

ここで過ごすための機能
カフェ・コンビニ・トイレ・屋根
 緑を取り入れて
高木・低木・防災ひろばは芝生に
 八幡の魅力発信拠点に
ギャラリー・観光案内

こんなご意見も

- 分庁舎をなんとかしたい...
- 広場の名前は募集してみたら？
- 八幡市の広報アプリをつくって！
- 福祉会館など活動を共にする外郭団体を一緒に
- 文化センターも一緒に演出できれば

まとめ

今回のワークショップ（WS）では、「市民に親しまれ、開かれた市庁舎」を実現するために、八幡市の全域に視野を広げ、豊かなまちづくりの資源を発掘することを通して、「やわたテラス」のビジョンを描き出して頂きました。限られた時間に溢れるほど飛び出してくる地域資源に関する情報の豊かさに、市民力・地域力の大切さを改めて認識しています。設計者には、WSの成果を活かして、多くの人が出会う「やわたテラス」を含む魅力的な八幡市庁舎を設計して頂きたいと思えます。

